

*** ここからは、まかせて・・・。馬2頭で、教科書を運ぶ子どもたち**

郵政省国際ボランティア貯金の配分を受けた真新しい教科書が届きました。車が入れるのはクロドの集落まで。この先山頂にあるラムアス小学校まで、急峻な坂道を1時間かけて運ぶのは馬と子どもたちです。1人5冊を頭に載せて。馬は両脇合計100kgまで運べます。にわか雨に備えて、ココヤシの葉でしっかりくるんだ教材もありました。



以下は、出張した森田さんに託して、ラムアス小学校の子どもたちから寄せられた喜びの手紙の一部です。原文はピラーン語やイロンゴで、マリオ先生が英語訳を添付してくれました。

「僕は今日、放課後残って新しい理科の本を読みました。家に帰ってからは、薪集めと水汲みを手伝いました。夜寝る前には、算数の本を開けて、千、百万、10億の数え方を勉強しました。学校に行くのが楽しいです」 (6年生のダニロより)

*** 教育プログラム Q & A**

Q : 子どもの学校の名称が複雑でわかりにくい？

A : CMBのピラーン族支援は、約40年前に、マーベル町郊外のボルール・コミュニティを拠点として開始されたため、小学校は、「ノートルダム・オブ・ボルール小学校」名で認可されました。1999年度末に、地域に建設された公立小学校にピラーン族初等教育は移管され、CMBボルール校は閉鎖されました。しかし、この「ノートルダム・オブ・ボルール」の名前は、今年度本校認可を受けたラムアス校(サウスコタバト州)とアトゥモロック校(サランガニ州)及びその分校名に冠して、残されています。以下は、今年度CMB運営の小学校4校の概要です。地図等は、次回掲載予定です。

学校(略称)	所在地	在籍生徒数ほか
アトゥモロック本校	サランガニ州マルンゴン町	1-6年まで、合計110名(うち6年生は10名)
サムラング分校	同上	1-3年まで。合計28名(4年から公立へ)
キアミ分校	サランガニ州マラパタン町	1-3年まで。合計80名(順次学年を増やす)
ラムアス本校	サウスコタバト州バンガ町	1-6年まで。合計135名(うち6年生は10名)

Q : 小学生支援は、低学年から始めたい？

A : 当会の教育支援は、コミュニティ自立の担い手を育てるCMB人材育成プログラムに協力する形で始まりました。4年生終了とともに学校を辞めさせる親が多い(かつて初等教育は、4年までのPrimaryが多かった)ので、5,6年生に優先的に奨学金を支給して、初等教育の完了、それに続くハイスクール、カレッジ進学を奨励して、指導者、技術者を育成することを目指しています。

—FIDR 助成による女性自立事業管理・出張報告—

森田奈美 (事務局ボランティアスタッフ)

この半年以上、フィリピンといえば爆発や誘拐事件、テロ行為などよくないニュースばかりが聞こえ、何度も延期していた出張ですが、現地より受け入れ可能の返事がもらえたので、今回行ってこることができました。

当たり前のことですが、「危ない」地域はごく一部で、その一部のことをニュースではその地域全体として報道したりします。用心するのは当然ですが、ニュースがすべてではないこと、また、あわせて現地の人言うことがすべてではないことを知っておく必要がある、と私は現地に暮しているときから感じていました(もちろん、これは安全に帰ってこられたから言えることなのですが)。

今回の目的は女性自立支援事業のティナラク織トレーニングプロジェクトについてで、トレーニングが大幅に遅れていることや、日本に暮らしていて、現地の状況が想像しにくいための情報不足を補うことなど、直接行かなくてはわかりにくいことを確認してこようとした。

このトレーニングは、チボリ族女性組合(COWHED)の事業として、国際開発救援財団(FIDR)から助成を受けたもので、対象はティナラク織を多少知っているチボリ族のお母さんたち(とは言うものの、私より若い子が半分位いるのです！十代の子もチラホラ…。早婚の伝統は今でも続いている